

## 平成 27 年度第 1 回総合教育会議 議事録

---

開催日時：平成 27 年 5 月 14 日（木） 11：00～12：00

傍聴者：2 名 報道関係者：4 名

---

### 次第

- 1 開会
  - 2 市長あいさつ
  - 3 会議の運営
    - (1) 浜松市総合教育会議設置要綱（案）について
    - (2) 総合教育会議で協議・調整する事項（案）について
    - (3) 浜松市の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定について
    - (4) 平成 27 年度会議スケジュール（案）について
  - 4 意見交換
  - 5 閉会
- 

### 1 開会

市長、教育委員（5 名）全員出席

### 2 市長あいさつ

（鈴木市長）

私は市長就任以来、マニフェストの第 1 番目に「こども第一主義」を掲げ、教育環境の向上に心血を注いでまいりました。これは、教育は国家百年の大計であり、次世代の育成こそ最も重要な施策であるという私の信念に基づくものです。

そうした中、国から首長と教育委員会で構成する総合教育会議の設置という方針が出され、推進していく運びとなりました。本市では、これまでも私と委員の皆様で定期的に教育に関する意見交換会を行い、一体的な教育行政の推進を図ってきましたが、今回それが制度化され、一層充実が図られるのではないかと思います。

浜松の教育のあるべき姿、課題について議論をし、浜松の教育行政が大いに推進されるよう、この会議がそれに対して大きな貢献をするよう、委員の皆様とともに頑張ってください。

### 3 会議の運営

#### (1) 浜松市総合教育会議設置要綱（案）について

（事務局）資料 1、2 説明 質問なし、了承。原案のとおり進める。

## (2) 総合教育会議で協議・調整する事項（案）について

(事務局) 資料 3 説明 質問なし、了承。原案のとおり進める。

## (3) 浜松市の教育及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定について

(事務局) 資料 4 説明 質問なし

### <大綱に盛り込む内容について>

(太田委員長)

今回策定する大綱は、学校教育、生涯学習、文化振興などの根本となる方針や目標を定め、コンパクトで、中身が濃いものにしていただくと、市民にも分かりやすいと思います。

例えば、教育委員会では、昨年度第 3 次浜松市教育総合計画を策定し、「未来創造への人づくり」と「市民協働による人づくり」の二本柱を掲げました。特に、学校を核として、地域を巻き込みながら、子どもたちが地域の人々とつながり、未来につないでいく「市民協働による人づくり」の理念を大綱に組み込んでいただきたいと思います。

(渥美委員)

太田委員長と同意見です。時代の流れとともに、従来の学校教育をそのまま続けていってよいのか、教育を学校だけに任せてよいのかなどの問題点が出てきています。その意味では、市民の方々の協力、地域の協力なくして今後の教育は成り立っていかないと考えており、市民協働の理念は、非常に重要なポイントだと考えています。

(石田委員)

私も、お二人と同じ考えです。教育委員会では、学校教育、義務教育中心に進めていますが、教育委員会だけでは限界を感じ、市長事務局との連携や市民を巻き込んだ教育が理想の姿だと思っています。市長事務局、教育委員会、市内の大学、企業、様々な団体が連携する市民協働の理念を中心に考えていきたいです。

(鈴木市長)

市民協働の理念については、第 3 次浜松市教育総合計画で取り上げられているとともに、国の教育再生会議でも、「総がかり教育」が方針として打ち出されています。これは時代の要請であり、うまく大綱に盛り込んでいきたいと思っています。

(太田委員長)

浜松で充実した子供時代を過ごすことができれば、一度外に出ても必ず自分の大好きなまちに戻ってきて浜松を盛り立て、またその子どもたちが育って、と、順番に流れていく

のが理想的だと思います。こういった観点も、大綱に取り込んでいただければと思います。

了承。原案をベースに、頂いた意見を盛り込みながら作業を進める

#### (4) 平成 27 年度会議スケジュール（案）について

(事務局) 資料 5 説明 質問なし、了承。原案のとおり進める。

### 4 意見交換

#### <全体を通しての意見、提案>

(渥美委員)

私は、総合教育会議が立ち上がったことに喜びを感じています。市長や市長事務部局の協力なくしては、教育は成り立たないと思います。そこで、この会議において私が一番期待し、お願いしたいことは、自由な意見が言えることです。市長や他の委員の意見を聴きながら、よりよいものを作り上げていく姿勢が非常に大事だと思います。

(鈴木委員)

10 年後、30 年後を考えると、今から短期的な視点でやらなければいけないことと、浜松市の総合計画、未来ビジョンに掲げられている、30 年後の姿のためにやらなければならないことがあります。

教育の観点から、子どもたちが大きくなって、子どもを産み育て、その子どもたちが大きくなって戻ってくる社会をどのように築くかという、一番の根本的な内容について、協議していきたいです。

(渥美委員)

20 年、30 年後の理想とする教育を目指すためには、今、何をすべきかという観点から考える必要があります。子どもたちが次代を担ったときに初めて私たちがここで協議し、結論付けたことが結果として現れてくると考えています。新たな制度の中で、そのような教育が実現されていくことを期待しています。

(児玉教育長)

私は、教職員一人ひとりの資質の向上、力量アップが子どもの学びと育ちに関わっていく、非常に大きい分野だと思います。教師塾での取り組みを全市の先生方に広めていく仕組みについても協議したいと思います。

## ＜会議の中で取り上げたいテーマについて＞

（渥美委員）

私が教育委員になって一番感心したのは、浜松市の教育の中で「立志式」を設けていることです。人生にとって大事なものは、「こころざし」を持つことです。「こころざし」があれば、苦しいことや悲しいことを乗り越える力になります。子どもたちにそのことを教えるためには、教える者が見本を示し、どのように導いていくか、常に「こころざし」を中核とした考え方をする必要があると思います。

教師、教育委員会、教育委員、総合教育会議の「こころざし」を子どもたちに投影することで、「こころざし」を持った子どもたちを育てていくことができると思います。

（鈴木市長）

子どもたちに生きる力をいかに身に付けさせるかということが教育の中でテーマになっていますが、言い換えれば、それが「こころざし」につながるのではないかと思います。

これは押し付けるものではありませんから、子どもたちの気づきを促す教育環境を、どのように作っていくかが重要になると思います。

私が小学校の時、先生から出された 1,200 字の日記を毎日書かなければいけないという宿題は、苦痛でしたが、ここでいろいろなことを考えましたし、それが今、非常に役に立っています。浜松市やらまいか大使の鈴木光司さんは、それで小説家にまでなりました。国語の先生の 1 つの試みの中から、全員が全員そのようになるわけではありませんが、たくさんの方が用意されていれば、子どもたちにとっていろいろな気づきになると思います。

まさにそこが総がかり教育で、学校教育だけではなく、地域、家庭も含めて生活していく中で、いかに子どもたちに気づきを持ってもらうかを考えていく必要があると思います。

（太田委員長）

押し付けられてやるよりも、自発的に関心をもってやったことのほうが子どもたちが伸びていくので、学校教育だけではなく、放課後や土日の活動の中で新しい発見をし、好きなことを見つけてもらうために、コミュニティ・スクールを充実させる必要があります。

地域で、ベテランのおばさんやおばあちゃんに助けをもらい、気持ちが楽になって子育てが頑張れることもあるので、学校で地域を巻き込む「人づくりネットワーク」は、これから本当に必要になってくると思います。その中で、特に重要な位置を占めてくるコーディネーターのあり方や関わり方について議論したいと思います。

学校にいろいろな人が関わる中で子どもが成長し、学校が再生していくことが重要だと思いますので、家庭教育も含めて議論したいです。

また、教職員のあり方や、採用の方法についても議論できればと思います。

(石田委員)

教職員の立場は教育の質に直結するため、職員の地位が守られ、向上していける環境を行政で整えていかなければいけないと思います。平成 29 年度に権限が移譲され、教職員の給与負担が浜松市になりますので、十分な用意をしていく必要があると思います。

(鈴木市長)

教職員の待遇や環境という点では、昔と違って先生の権威が低下しているように思います。良い悪いは別として、昔の先生は独特の権威がありました。教職員の待遇を良くするよりも、権威をどのように回復するかが重要で、先生が手足を縛られたように、子どもに対して何にもできない状態は望ましくないと思っています。

(渥美委員)

子どもから尊敬され、保護者から尊敬される、この土台がないと、教育は成り立ちません。私の小学校、中学校時代を振り返りますと、どのように勉強を教えてもらったかということよりも、あの先生に教えてもらった、あの先生のおかげで、今、自分はこういう人間になった、そちらのほうがはるかに大きいです。小中学校の教育で最も大事なことは、人づくり、人格教育であり、魂を扱う仕事であるということです。学校の先生がみんなから尊敬され慕われることが大前提で、そうであってこそ、先生が教える言葉に力が宿ると思います。

では、なぜ今学校の先生方が昔ほど尊敬されなくなっているのか、社会の変遷、子どもたちをとりまく環境の変遷など、いろいろな事情があるかと思います。しかし、教える者が、教えられる者から慕われ、尊敬される普遍的な理念、価値は変わりません。種をまき、水をやり、光を当てる、それが学校教育だと思います。それを先生方はできているか、できるようになるためにはどうすればよいのか。そして、先生方に教育委員会は何をしてあげられるのか、この観点から考えていく必要があると考えています。

(鈴木委員)

「市民協働」が、これからの浜松では大きなキーワードになっていくと思います。そのために、市長事務部局の生涯学習などを扱う部局と、義務教育の子どもたちを預かっている教育委員会が横断的な形で協議・調整し、進めていくことができればよいと思います。

コミュニティ・スクールのように、一歩進んで、地域の方に学校に入ってもらって、先生たちの仕事の大変さを見てもらうことも必要ではないかと思います。昔は、先生方が、自分たちの領域に入ってほしくない雰囲気があったと思いますので、これからは取り払っていただいて、先生方の意識も変えていかなければいけないと思います。学校の中に地域の方が入ることで、先生方が楽になる方法、力をすべて子どもたちに向けていける方法を見つけることができると思います。

併せて、人づくりネットワークをいち早くスタートさせ、運用するためにはどうするべきかについても議論したいと思います。

(鈴木市長)

いきなり総がかり教育に参加してくださいと地域の方をお願いしても、どう動いてよいのか分からないのではないのでしょうか。まず仕組みづくりから取り掛かるのは、大事なことだと思います。

私は毎年浜松まつりに参加しますが、私の町内では、うまく祭りに子どもたちを参加させて、非常に良いコミュニティを作っています。祭りをいかに郷土教育に活用するかなど、いろいろなテーマが考えられると思います。学校に地域の自治会の人を集めて、参加して手伝ってくださいというのが総がかりではなくて、地域の中でも子どもを育てる機会があるので、それをいかにして教育の仕組みの中に取り込んでいくかを考える必要があると思います。

(児玉教育長)

私も、5月3日に初めて浜松まつりの凧揚げに参加しました。驚いたのは、地域の人たちが、子どものラッパ隊をしっかり指導し、地域で子どもたちを育てていることです。浜松まつりだけでなく、地域でいろいろなイベントをやる中で、地域で子どもを育てる風土を作ることが重要だと実感しました。

(石田委員)

浜松市全体を見ると、地域を中心とした活動や、NPO法人、ボランティア団体が行う活動や講座がすでに存在しているので、それを市全体として把握・整理し、一つのネットワークにして地域とつなぎ、子どもたちの学びだけでなく、大人も学べる環境を作っていく必要があると思います。

(児玉教育長)

現在、それらの活動を人づくりネットワークの中へ盛り込む作業をしています。今後、コミュニティ・スクールも含めて、進捗状況などを報告させていただきながら、ご意見をいただきたいと思います。

(渥美委員)

今日は、アトランダムに総花的に意見を言わせていただきましたが、次回以降は協議のテーマを絞って意見交換できればと思います。

私は学校の先生が教育の中で最も大事であると考えています。子どもたちを教える技術を教師塾などで磨く一方で、その根底となる幅広い人間性については、教育委員会、総合

教育会議としても少し光を当て、水を注ぐことが必要だと思います。例えば社会の人と教育を通じて触れ合ったり、専門家の意見を聞いたりする機会をどのように設け、教師としての能力を磨いていくかについても考える必要があると思います。

教師としての能力を最も磨くことができるのは、我が子を教えることです。我が子を育て上げた自信が、自分の教室の子どもたちに対する自信となり、果ては尊敬となって結実すると思います。今後の具体的な各論部分については、このような観点から意見を交換したいと思います。

(事務局) 次回以降の進行については、児玉教育長にお願いしたいと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。

了承

## 5 閉会

(事務局) 次回の会議は、大綱の中間報告を予定し、8月頃の開催を予定しています。